



てらるる



2026年
3月
No.939

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「目からウロコの福音」

日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師 浅野直樹 Sr.

「神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。」(ローマの信徒への手紙4・13)



イエス・キリストの福音を世界へ広め、キリスト教の礎を築いた人といえ、パウロです。新約聖書が聖典として成立したとき、パウロの手紙が聖書のなかに多数採用されたことからも、影響力の大きさを推し量ることが出来ます。パウロの手紙が読みやすいという人は少ないでしょう。多くの手紙は文体が堅く、法律家のような語り口です。実際、辛口の評価を受けたことを彼自身が手紙に書いていて「わたしのことを、『手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない』と言う者たちがいる」(コリントの信徒への手紙10・10)。

手なパウロの対極にあるのがイエスです。イエスが書いた文書は何もありません。もつぱら語る人でした。しかもたとえ話をたくさん使い、庶民に伝わる言葉で、神の国をわかりやすく話したので大いに受けました。ですからイエスはいつも群衆に取り囲われました。

言い回しにはなつたけれども、神学的にきちんとまとめた、という意味の正確さです。パウロはイエス・キリストの福音の神髄を適格な言葉で表現してくれました。そのおかげで福音はキリスト教という宗教の器に納められ、世界へと広がったのです。

「しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。」これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです。」(ペトロの手紙1・25)

パウロの手紙がなぜ聖書に入れられ、しかも中心的な位置を占めるようになったのか。その理由をひとつあげるなら、イエスキリストの福音を最も正確に書き残したからだだと思います。「正確に」とは、イエスの言葉と行いを史実に則して正しく伝えたということではなく、彼なりの表現で、多少小難しい

そのパウロが伝えた福音の神髄、これぞ福音、その正体を冒頭の聖句からひもひもとユダヤ教ファリサイ派でした。「ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に關してはファリサイ派の一員(フィリピの信徒への手紙3・5)と告白しています。そんなパウロにとってアブラハムはなんといい信仰の祖、信仰の父でした。アブラハムは「生まれ故郷を離れて、わたしが示す地に行きなさい」との召しを受け、主の言葉に従って旅立ちます。神は彼に約束します。「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。」(創世記12・2)これが冒頭聖句の「世界を受け継がせる」という約束です。

次にパウロはローマの教会の人たちに告げます。「その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。神のみ旨に従って生きる、アブラハムのように行動する、それが「律法に基づいて」生きる信仰者の本来の姿であり、パウロが目指した生き方でした。けれども私たちは信仰者でありながら、そうではない姿をさらけ出します。思いと言葉と行いにおいて罪をおかし、神に背いてしまっています。パウロはそうした人間の罪から目をそらしません。「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行つています。」(ローマの信徒への手紙7・19)このように告白する彼自身もまた罪に悩んだのです。

「今、歌つたり、読む本が同じものでも、昔歌つた歌や、読んだ本の言葉の意味が違つてくる時ありますよね。」と言われ、確かにあるかもしれないと考えさせられた時があります。もちろんどちらの考えが良いかなんて判断する必要もありません。その時、その時が一人一人にとって真実だからです。



「聖パウロの回心」(1600年～1601年) ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ

そこら律法によらない義があることに気づきました。我田引水したのではありませぬ。信仰の祖アブラハムから、新たな義を発見したのです。「聖書には何と書いてありますか。アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた」とあります。「ローマの信徒への手紙4・3)律法の書である創世記から引用しながら、しかも律法によらず信仰による義を説いたのです。キリスト教の教えは、よく「信じる者こそ救われる」と言われたりしますが、まさしくそれです。広く社会で知られるキリスト教信仰の神髄です。パウロが神学的にまとめた教えがその基となつています。こんなことも言います。「不信心な者を義とされる方を信じる人は、働かなくてはならない。その信仰が義と認められます。」(ローマの信徒への手紙4・5)誰よりも自分に厳しく、律法に徹し、行いを重んじたパウロが、手のひらを返してこう言い切つたのです。ダマスコへの道すがら復活のキリストと出会つて、「目からウロコ」体験をしたパウロですが(使徒言行録9・18)、神の義についても目からウロコ体験をしたのです。

行いが問われ、業績で評価される人間社会ですが、神様の前では違います。信じることで義とされます。神様の愛を受けとれるという福音です。これは私たちも体験できる目からウロコです。

ふつと思ひました。これつて聖句も同じかもしれない。「何月何日は、この聖書の箇所から先生がお話してくださつた。」と思う方がおられるかもしれないですが、大体の方が聖句にも、先生からのお話も初めて出会います。それは今のあなたに神様が語られ働かれるからです。言葉として語られる言葉は変わりません。賛美の歌詞も変わりません。変わるのはいそれらを受け止める今のあなたです。変わることは怖いことでも、いけないことでもありません。わたしたちは変化するものです。変わらないうで働き語りかける方は、いつもここにおられて、あなたを必要とされています。あなたは大切な存在です。変わらなうあなたと共にあります。たとえあなたが変化の中にあつたとしても、わたしは変わりません。



伊藤早奈

⑫「変わらないもの」

リレーコラム

「全国の教会・施設から」33



日本福音ルーテル 湯河原教会

牧野祐之 (日本福音ルーテル 湯河原教会代議員)

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。」(マタイによる福音書6:33。聖書協会共同訳聖書を年間聖句として、二人がみ言葉に向き合って過しています。

ジョン・ボーマン牧師が70年前に宣教を始めました。40年前頃から小田原教会と兼牧体制が始まり、数年を除いて続いてきました。4月からは新しい体制になります。 牧師と信徒役員会は



湯河原教会70周年感謝礼拝

のお届け(今はメールが主)、近況のお尋ねなどが行われています。

去年の秋には、チャリティーコンサートを行い、町内の皆さんを招き豊かな時を過ごすとともに、能登復興支援活動への応援をしました。

三つ目の特長は、お墓をすぐ行ける町内に持つことです。教会外の方の利用も考え、十分な広さを持つて作られています(真鶴至善公園墓地内)。

今年の主題「祈り・神の家族として」のもと、祈りによる繋がりを求め続けていきたいと思えます。

慈愛園乳児ホーム

潮谷佳男 (慈愛園乳児ホーム施設長)

熊本市中央区の県庁近くに位置し、交通の便に恵まれるとともに、江津湖にもほど近い自然豊かな環境にあります。その歴史は非常に古く、前身である「ルーテル孤児の家」に二人の幼児がいたという記録が残されており、少なくとも1919年以前にさかのぼります。その後現在の神水の地に、北米一致ルーテル教会の寄付金によって施設が設立され

ました。設立当初は「コロニーオブマシー」と呼ばれていたようですが、九州学院初代学長である遠山参良氏によって「慈愛園」と名付けられ、今日まで創立者モード・パウラスが言った「散らされた人々を集め、ひとりも失われないようにする」という理念が受け継がれています。

乳児ホームでは、新生児からおおむね2歳頃までの乳幼児を定員15名で受け入れています。潮谷義子園長の時代に導入された担当制の「ケースマザー制」により、職員が一人一人の子どもに付いて、カリキュラムの作成、発達診断、ケース管理までを貫いて担い、継続的で丁寧な養育を行っています。熊本という地域性から、「こうのとりのゆりかご」や「内密出産」に関わるケースにも対応する必要があり、運営は決して容易ではありません。加えて、病弱児や障がいのある子どもが全体の約3割を占めており、養護施設に比べ医療的ケアの必要性が高いのも特徴です。そのため看護師3名を配置し、保育士や心理職など多職種が連携し、それぞれの専門性を生かしながら養育にあたっています。

現在、社会的養護の分野では「高機能化・多機能化」が求められています。慈愛園乳児ホームでも本



慈愛園乳児ホーム入り口付近から

体事業に加え、ショートステイやトワイライトステイ、緊急一時保護、里親支援センター、病児デイケア、「もうすぐ、パパママ教室」など多様な事業を展開しています。里親委託や特別養子縁組の歴史も古く、その実績から熊本県より委託を受けた里親支援センター「養育家庭支援センター」さらさらでは、阿蘇から天草まで県内各地を巡回し、里親支援や研修、リクルートに日々取り組んでいます。乳幼児の命を預かる現場は、病気や感染症への緊張が続きますが、子どもたちの笑顔と確かな成長が、職員にとって何よりの励みとなっています。

改訂 宣教の空

小泉基 (日本福音ルーテル札幌 教会牧師・宣教室長)

榎本千代乃さん (単立文遠キリスト教会信徒)

小泉 こんにちは。榎本さんは永年、点字雑誌「信仰」の主筆をなさっておられますね。どのような雑誌なのでしょう。

榎本 日本盲人キリスト教伝道協議会(盲伝)が発行する月刊の点字雑誌です。また点字の読み物が少なかつた1915年に、全国の視覚障がい者に福音を届けたいという盲人キリスト者のあつち祈りの中で「信光」として刊行が始まりました。その後「信仰」と名称を改めつつ連綿と発行が続けられ、今年で110周年を迎えました。2004年からは墨字版も発行が始まり、現在はテープやデータ、デジタルと呼ばれるCD版も発行されています。

小泉 110年前から一度も途切れずに発行され続けている日本の雑誌は、正岡子規が創刊した句誌「ホトトギス」と、「信仰」くらいのものだと

伺いました。発行が続けられてきたということは、この雑誌が必要とされ続けてきたという証だといえますね。主筆である榎本さんは、どのようなお働きをされるのですか。

榎本 編集委員会の中でその月のテーマを検討し、それにふさわしい執筆者に手紙やお電話で原稿を依頼します。巻頭メッセージを超教派の牧師に依頼するほか、8月は平和をテーマに「わたしの残したい証言」、10月は「信仰110年を覚えて」、11月はルイ・ブライユの点字考察2百年を記念して「点字とわたし」といった具合です。

小泉 編集にあたっての苦労があまりのこと

榎本 締め切り間際になつて「やっぱり書けない」と言われてしまうことなどがあると、代役探しに焦ってしまうこともありませぬ。でも、実際には喜びの方がずっと多いのです。抗がん剤治療をなさつておられる方から「信仰を

毎月読むことで慰められ、勇気が与えられた」と伝えていただいたりすると、やりがいを感じます。

小泉 ありがとうございます。最後に、榎本さんのキリスト教との出会いと、愛唱聖句を教えてください。

榎本 日本点字図書館に長年勤めていたのですが、お昼休みに小さな聖書研究会があつて、そのつなかりで受け取ったテープから、「ザアカイよ急いで下りてきなさい(ルカによる福音書19:5。口語訳聖書)というみ言葉をいただいたのです。そのころ、まだ神様の存在を疑つていて、神様を上から見下ろすような思っていたのですが、イエスさまが木の下がらわたしに呼びかけられた気がしました。自分がイエスさまと出会ったことが、その時にはつきりわかつたのです。

小泉 本日はありがとうございました。『信仰』のますますの発展をお祈りいたします。



榎本千代乃さん近影

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師
世界宣教主事

「ウエルカムな教会めざして」

クリスチャンとしておもてなしが出来ているのだろうか？人種、ジェンダー、性別、性的指向、障がい、経済的地位の分け隔てなく、教会は全ての人に開かれているだろうか？「うっかり失礼な態度をとっていないだろうか？」

青年たちは、2023年世界ルーテル連盟(LWF)総大会でユースが優先課題とした方針「受容性と参加」を実践すべく、11月8日から12月6日にかけて「ウエルカム」にフォーカスを当て研修しました。参加者93名が探求したのは、「ウエルカムの神学」「ウエルカムツール」「ウエルカムの実践」。各セッションに神学的な検討を交え、専門家による講義と体験談の分かち合いがありました。

イをして、教会、スーパー、公園などを初めて訪れたとき、歓迎されたと感じたかどうか、なぜ良かったか悪かったかを熱心に議論しました。

「ウエルカムツール」セッションでは、LWFユースプログラム担当のサリバン氏が「キリスト者リーダーシップとは自己都合でぐいぐい引張ることではなく、エチオピアのメカネイエス神学校のグダ博士の言葉を引用して、「相手を包み、共感し、一致正義を守るものでなければならぬ」と述べられました。

「ウエルカムの実践」セッションでは、参加者たちが学んだことを実際の現場で生かした体験などを紹介しました。「心からの歓迎は単にあいさつだけでなく姿勢を示すこと、誰にとっても、ここにいて良いんだと安心できる場所を作る」とです。インドのラジマルさんはこのように述べて、共感、傾聴、自分自身に偏った見方がないかどうかを知るこの大切さに気づきました。

<https://lutheranworld.org/news/youth-reflect-making-churches-welcoming-and-inclusive>



ど、青年たちはさまざまな方法のウエルカムの取り組み方を考案しました。正義を訴える地域住民の抗議行動に誘ったり、一言「あなたは大切な人です」と伝えたりすることも、とにかく言葉と行動を通して、そして連帯の大切さを常に学ぶこと、それがウエルカム。「隣人のために備える、グループ内の不平等や自分自身の偏見に気づく、教会や社会のなかで誰が受け入れられ、誰が仲間外れになっているかを正直に話す、みんなの居場所をつくる、変わるべき所を変えていく。それが神様の召しに心えて隣人を知ることです。誰との出会いであつても、それは神様との出会いです。なぜなら出会いには全て、神にかたどって造られた誰かとの出会いなのだから」。(LWFユースプログラム担当のサリバンさん)



石居昇夫

ルーテル学院大学学長・日本ルーテル神学校教授

「ルーテル先生とシユッテ先生が来日されたのは1958年ですが、実はこの50年代には、日本福音ルーテル教会では、ディアコニアの働きを教会の本格的な事業としていくことについて検討がなされていきました。

は一種のブームとなりました。ルーテル教会に限っても北欧やドイツ、デンマークなどから、また当時のアメリカのそれぞれにルーツを持つ宣教団体からも新たに宣教師が送られて来ます。そうした流れの中、戦後日本のさまざまな社会問題に取り組み

事業のための委員会が1950年の常議員会で設置されていて、同年の教会総会では、このドイツからのディアコニッセ受け入れの決議とともに、今後のディアコニア事業をどのように実現できるかの検討が委員会に託されたのでした。

そこでディアコニッセ養成を始めます。それが病院、孤児院、幼稚園、そこで働く看護師や幼稚園教師の養成などに展開を見せるのです。あのナイチンゲールもカイザーズウェルトで看護師訓練を受けたので、そこから先進性がわか

先生もアメリカに作られた四つのディアコニッセ養成学校の一つで学ばれました。初期の宣教師夫人たちがルーテルでの社会福祉や幼児教育に大きな貢献をされた源流がここにあるのです。

「教会讃美歌」新デジタル版下版の歌集刊行について

松本義宣

日本福音ルーテル東京教会・板橋教会千葉教会津田沼教会 牧師典礼委員会委員長



くつかの改訂、変更点がありますので説明いたします。

①記譜法を「2021年教会讃美歌増補(分冊)I」で採用した3段楽譜形式(旋律の下に可能な限り歌詞を付す)へレイアウト変更しました。そのため大多数の歌が見開きとなり、見やすくなります

現行「教会讃美歌(小改訂版)」が、従来の「アナログ製版」での印刷(増刷)が不可能となる事態を受け、「デジタル版下」を新たに制作するに伴い、小改訂を加え新装版を刊行することになりました。「2000年小改訂版」と併用できるように、歌詞・旋律・曲番号はそのままですが、歌集としてい

たものに「アーメン」は必ず、要ない訳で、習慣が変わるのは、とまどいを感じ、けじめがないと居心地の悪さを感じるかもしれません。もちろん、歌われるTPOで、どうしても「アーメン」と唱えたい場合は、従来の「アーメン終止」、旋律の和声での歌唱を付けてもかまいません。

③曲集の後に載る「主の祈り」は、従来のNCC口語訳に加えて、改訂式文で採用した「カトリック・聖公会共通口語訳」を掲載しました。また、増ページのため、「交読詩編」と「教会歴(暦)に適する

讃美歌」は省かれています。現在、聖公会と共同で全詩編の「交読詩編」を作成中で、完成後これが用いられるため、また、教会暦に適しその礼拝にふさわしい賛美歌は、教会暦の改訂共通聖書朗読日課(RCL)導入に伴い箇所が変更になり、別途ウェブ配信等に対応する予定のためです。

本来なら、初版以来52年、小改訂からも26年が経過し、増補のために用意した歌も含めた大改訂「新歌集」が待望されますが、まずはこの「デジタル版下版歌集」が広く用いられることを願っています。

